

令和9年度
富山大学大学院教職実践開発研究科
教職実践開発専攻

教職大学院案内 2027

活かすのは、“富山の教育力”
育てるのは、“富山のスクールリーダー”

令和9年度入学試験
(派遣教員入試・一般入試)

令和8年11月15日(日)

富山大学

大学院教職実践開発研究科教職実践開発専攻

ごあいさつ



大学院教職実践開発研究科長
教授

黒田 卓

富山大学大学院教職実践開発研究科（教職大学院）は、富山県教育委員会との強い連携・協働体制の下、高度な実践力・課題解決力を有する教員を養成することを目的としています。学校現場が抱える今日的教育課題について深く理解し、理論と実践を往還・融合させる教育を通して、スクールリーダーとして活躍できる人材を育成することを目指しています。

富山県教育委員会から派遣される現職教員学生と学部新卒学生が、校種も経験も違う中で共に学び合うことで、お互い刺激を受けながら、教育の方法と指導技術に関する実践力を身につけることができます。14名の学生に対して20名の専任教員が手厚く指導をしており、授業では研究者教員と実務家教員の共同指導（ティーム・ティーチング）も多く行われ、ディスカッションやロールプレイング等を通して学生が活発に学んでいます。

また、富山県総合教育センター調査研究事業や附属学校園での研究事業に参加することで、教育活動全体を俯瞰する力や今日的教育課題に対応できる力を養うことができます。それぞれの連携協力校で実習しながら、自ら教育課題を発見し、学校現場で再確認することができるのです。

さらに、授業で得た理論や実習で得た気づきで発見した経験を体系的に結びつけ、2年間の学びの集大成として教育現場に還元できる提案を報告するという活動を通して、総合的な研究力を身につけることができます。

本教職大学院は、富山県の教育界に貢献できる人材を輩出すべく、教職員が丸となって熱意と使命をもって授業・実習に取り組んでいます。明日の教育に強い思いをはせる皆様の入学を心よりお待ちしております。

理念・目的

富山大学と富山県教育委員会の強い連携の下、高度な実践力・課題解決力を有する教員(スクールリーダー)を養成することで、富山県における教員養成全般に対する先導的・主導的役割を果たす。

特色

【教育課程の特色】

*カリキュラムの基盤となる「共通科目」、「実習科目」、「省察科目」は実務家教員(教職等の実践経験を有する教員)と研究者教員の共同授業を原則として実施することにより、理論と実践の往還を図ります。

*コース等を設けず、現職教員学生と学部新卒学生が共に学ぶことにより、互いが刺激を受け、スクールリーダーに必要な能力を身につけることを重視します。

*富山県総合教育センターの調査研究部門(教育研修部、科学情報部、教育相談部)が実施している調査研究事業と連携した教育課程を編成し、高度な実践力・課題解決力を養成します。

養成する教員像

学校現場が抱える今日的教育課題について深く理解し、高度な専門性と実践力、高い課題解決力を備え、“チーム学校”の牽引役となるスクールリーダーを養成します。

【富山大学と富山県教育委員会の緊密な連携の確立】

*富山県総合教育センターの研究主事が、実務家教員として教職大学院の授業・院生指導を行います。

*教育内容も含めた教職大学院の運営全般に関し、富山大学と富山県教育委員会が定期的に意見交換を行う場として「教職大学院連絡会議」を設置しています。

*富山大学の他、富山県教育委員会や学生の実習等を行う連携協力校等の関係者等を集め、教職大学院への助言・要望等を汲み取る場として「教職大学院支援会議」を年に1度開催し、その会議の一部として修了生の研究発表会を開き、質疑応答や意見交換等を行います。

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

本研究科は、本研究科の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)に基づき、教職分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、文化の進展に寄与しようとするとともに、学校現場が抱える今日的教育課題について深く理解し、高度な専門性と実践力、高い課題解決力を備え、スクールリーダーを目指す意欲を備えている者を受け入れます。

教職実践開発専攻での学び

講義・演習

教職大学院での授業は、講義だけでなく少人数での演習やワークショップ的に行われるものがほとんどです。授業では、積極的な発言や議論への参加が求められます。また、多くの授業では、研究者教員と実務家教員が共同で指導することで、理論と実践の両面から、教育のさまざまな課題を考えることができます。現職院生とストレートマスターと一緒に学ぶことにより、多様な見方や考え方に会うこともできます。



実習校・富山県総合教育センターでの研修

1年次は週に約1日半、2年次は約1日実習校や富山県総合教育センターで実習を行います。学部での教育実習とは異なり、学校のスタッフの一員として、学校の抱える課題をどのように解決していけば良いかを考え、実際にその解決に取り組みます。1年次は富山県総合教育センターの調査研究事業と連携して実習を行います。その活動を通して得られた課題を、2年次に、各自の実習課題や研究課題として追究していきます。



院生各自の主体的な学び

教職大学院には専用の院生室が用意されています。課題等に取り組む個人スペースとしてだけでなく、院生同士が常に情報交換を行える交流スペースとしても機能しており、現職院生とストレートマスターともに、日々、互いに高めあいながら過ごしています。この他にも、各自の実習での学びを振り返るカンファレンス、教員採用試験のためのセミナーや個別相談・指導、海外研修等も開催されています。また、院生各自の主体的な活動として地域の文化財や自然環境、博物館等をめぐる教材開発ツアー、学びの問題を考えるための少年鑑別所等への訪問など、院生自らが企画、実施されています。さらに、日本教職大学院協会研究大会やさまざまな学会等において、研究発表を行う等、研究活動にも熱心に取り組んでいます。



Q&A

Q: 教職大学院はこれまでの大学院と何が違うのですか？

A: 教職大学院は専門職大学院です。専門職大学院では講義だけでなく相当時間の実習が義務づけられているところが、これまでの大学院と大きく違います。また、修士論文は課せられていませんが、本研究科では、個人で課題を設定し、それを追究し、その結果を研究報告書にまとめ発表することを義務づけています。

Q: 教職大学院は誰でも受験できますか？

A: 本研究科は教員養成を目的とした専門職大学院です。修了時には専修免許を取得し、教員となることが求められます。そのため、受験の条件として小、中、高等学校いずれかの一種免許状(教科は問いません)の所有、もしくは取得見込みである必要があります。(入学時には所有している必要があります。)

Q: 取得できる教員免許にはどのようなものがありますか？

A: すでに所有する小、中、高等学校の一種教員免許状について、専修免許状に上進することができます。幼稚園および特別支援教育の免許状については本研究科では専修免許状にすることはできません。

Q: 教職大学院の講義ではどのようなことを学ぶのですか？

A: 本研究科の科目は、共通科目(5領域・必修)、現場が求める教員の資質・能力に関する科目(選択)、実習科目、省察科目で構成されています。詳しくは Web ページを御覧ください。

Q: 修士1年のときに教員採用試験は受験できますか？

A: はい。受験に合格しても、富山県の場合、別記のような大学院修学支援制度があり、修学を継続できます。その他の都道府県については、各都道府県教育委員会にお問い合わせください。

(注)子ども性暴力防止法の施行に伴い、該当者は修了及び専修免許状の取得ができません。

入試情報

(注) 富山県教育委員会では、教員採用選考検査を合格し、大学院進学もしくは大学院在学中で大学院での修学を希望する場合、専修免許状取得を条件に、任用候補者名簿への登載期間を最大2年間延長する修学支援制度が設けられています。詳しくは、富山県公立学校教員採用選考検査実施要項を御覧ください。

【募集人数】教職実践開発研究科 教職実践開発専攻(専門職学位課程) 派遣教員入試 ・ 一般入試 14名

※派遣教員入試該当者とは、富山県教育委員会が大学院派遣研修を認めた者です。それ以外はすべて一般入試となります。

【出願方法】

出願はインターネット出願のみとします。出願手続は、インターネット出願サイトでの出願登録及び検定料の支払いを行った後、必要な書類等を出願期間内に必着するように書留速達郵便で郵送することにより完了します。ただし、11月5日(木)までの消印(日本国内の郵便の消印に限る。)のある書留速達郵便に限り、出願期間以降に到着した場合でも受理します。持参による出願は認めません。

なお、派遣教員入試対象者は、富山県教育委員会できりまとめて送付しますので、富山県教育委員会が別途指定する期日までに富山県教育委員会教職員課へ提出してください。

詳細は本研究科Webページに掲載される募集要項をご確認ください。

教職実践開発研究科Webページ <https://ttd.edc.u-toyama.ac.jp>



出願期間: 令和8年10月30日(金)~令和8年11月6日(金) 17時必着

【入学者選抜方法】

- ・派遣教員入試は、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。
- ・一般入試は、小論文試験、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

- 試験日: 令和8年11月15日(日)
- 試験場: 富山大学教育学部 富山市五福3190
- 試験日程: 小論文試験(午前)、口述試験(午後)

【合格者発表】

合格者については、下記期日に教育学部正面玄関に掲示するとともに、本学Webサイトにて合格者受験番号を発表し、本人あてに合格通知書を送付します。また、派遣教員入試合格者の氏名については富山県教育委員会教育長宛に送付します。なお、合否についての電話照会には応じません。

- 合格発表: 令和8年12月1日(火) 13時

【市内電車利用】

富山駅から約15分
「富山大学前」電停下車 徒歩約5分

【バス利用】

富山駅から約20分
「富山大学前」バス停下車すぐ

【タクシー利用】

富山駅から約15分
富山きときと空港から約15分

【車利用】

北陸自動車道「富山西IC」から約15分
北陸自動車道「富山IC」から約20分



お問い合わせ

〒930-8555 富山市五福3190 番地

富山大学人社系学務課(入試担当)

TEL:076-445-6258 FAX:076-445-6357

E-mail: kyominfo@adm.u-toyama.ac.jp

